

二〇一五年「青年部台湾研修ツアー」

李登輝先生に学んだ日本人の自覚

仙台北台合学園高等学校三年 藤倉 暢子

何度も脳裡をよぎった蔡先生の言葉

今年の八月二十日から二十三日の四日間にわたって行われた、日本李登輝友の会青年部（杉本拓朗部長）による第四回台湾研修ツアーは、私にとって六回目となる台湾への旅でした。私が初めて台湾を訪れたのは、今から五年前の中学校二年生のとき、李登輝学校研修団に参加した際です。

当時、台湾について何ひとつ知識がなかった私は、ただ海外に行けることが嬉しく、旅行気分でご父についていきました。しかし、現地の日本語世代の方々のお話を聞けば聞くほど私自身の勉強の足りなさを思い知らされ、今までの私の知識の少なさを不甲斐なく思

いました。

今回の研修では、今まで台湾を訪れた際には知ることのできなかった台湾に関することを新たに知ることができたように思います。

また今回、私が学んだこと、それは私たち若い世代が日本精神を継承するものとしての自覚と責任を持ち、しっかりと日本の未来を見据えて判断して行動に移すことが求められているということです。研修ツアー中、以前、蔡

焜燦先生にお目にかかった際におっしゃっていた「日本を愛しなさい」という言葉が何度も脳裡をよぎりました。では、私にとってたくさんの収穫があった今回の台湾研修ツアーを、カレンダーの日付をさかのぼって振り返っ

てみたいと思います。

大稻程と雙連朝市

初日の八月二十日は台北市内の上賓大飯店に集合した後、大稻程へ向かいました。大稻程とは、乾物や漢方薬の間屋街で有名な迪化街の周りを指すそうです。元々は艋舺と言われる場所が交易の中心だったそうですが、時代とともに大稻程が交易や文化の中心になり、当時から建物が残っている街だそうです。

お店に実際に入っていると横幅は短いのですが、部屋が四つもある奥行きが非常にある造りで、「うなぎの寝床」という言葉通りの面白いお店でした。建物の上を見ると、バロック建築など西洋式の建築様式が施されています。商売で成功して、そのお金で西洋式の建築を施したそうです。

大稻埕の建物を見たときには、台湾を象徴するバイナッブルをデザイン化した紋章とバロック建築の融合という

独特な手法を取り入れた建築様式に、台湾はいろいろな国の文化の影響を受けて、時代の波にもまれながらも成長・発展を遂げたのだと思いました。また、台湾の歴史の変遷を伝える貴重な建築物として、今後も後世に語り継いでいってほしいと思います。

翌八月二十一日の午前中は雙連朝市^{そうれん}へ。夜市には何度も足を運んだことがあります。朝市に行ったのは初めてです。狭い道に多くの露店が連なり、食料品から家庭雑貨や衣類など豊富な品物があります。狭い道を多くの人がちが品定めをしながら往来を歩いてい



大桶程に残る西洋建築様式で建てられた貴族院議員だった華頭栄の邸宅（8月20日）

るため非常に賑やかな印象を受けました。スーパーで買うのとは違い、朝市の場合、対面でのやり取りなのでそこから人とのコミュニケーションが生まれ、暖かい心の交流が生まれるのだと思います。

雙連朝市の中ほどに台北市文昌宮という廟があり、そこは学問・試験の神様でした。廟にはさまざまな言語で書かれた絵馬が吊るされており、台湾はもちろんのこと、日本・韓国・中国など多くの国から参拝する人気のある廟でした。

李登輝先生の特別講義

昼食を摂ってホテルに戻った後、正装に着替えてタクシーに乗りました。向かった先は李登輝元総統のご自宅。厳重な警備がされた閑静な住宅街を進むと、元首経験者に相応しい、気高い中にも威厳のある白い建物が私たちを迎えてくれました。

玄関前で一礼してから中へ進むと、

優しいまなざしの李登輝先生が立っておられ、私たちをお出迎えいただきました。一人ひとりの手を握りながら名前を確認した後、席に案内され着席。いよいよ李登輝先生による待ちに待った講義が始まります。聴講者は六人。特別かつ贅沢な時間の始まりです。

配られた資料は四冊。これらの資料をもとに、三時間にわたり、いくつかの事柄についてお話を伺いました。特に印象に残った言葉をここに書きたいと思います。それは、「台湾は世界の一部だ」という言葉です。また「台湾はいかなる国の一部分でもなく、台湾の政治・経済・文化のどれも、いかなる他の国に依存するものではない」ともおっしゃっていました。

私は今回、李登輝先生からこのお言葉を聞き、改めて台湾という国が国家であることを理解し、国際社会における共同体の一員であることを再認識しました。

現在、日本の学校教育で使われてい

る教科書の多くは、台湾を中国の一部であるかのように記しています。これからの未来を担っていく私たちにこのような教え方をしているよいのだろうか、私は日頃から疑問に思っていました。日本人であるからこそ、しっかりと正しい知識と教養を身につける必要があります、それが今の社会で求められているということを私たち一人ひとりが自覚するべきだと思います。

公職選挙法等の改正によって来年から選挙権が十八歳に引き下げられることが決まり、私も来年には選挙権を得ます。そのようなときにしっかりと知識がなければ、国を正しい方向に向かせることは難しくなります。自国のことをも考えられない人々が、どのようにして他国へ目を向けることができるのでしょうか。

今の私たちにできることは、日本について正しく知ること、そして視野を広げて世界を見ること。このことが今回、李登輝先生のご講義から学んだこ



ご自宅で3時間以上にわたって台湾の置かれている状況などを特別講義される李登輝先生（8月21日）

とです。

李登輝先生は秘書の方から「時間です」と終了時刻であることをお聞きになっても「まだいいだろう」とおっしゃり、そこからさらに一時間以上もお話していただきました。

秘書の方によると、李登輝先生は日本李登輝友の会青年部が来ることを心待ちにされていたそうです。最後に一人ひとりとツーショット写真を撮り、みんなで集合写真を撮っていたいただき、ご自宅を後にしました。

台湾人青年と出合いのひととき

三日目となる二十二日は、現地の台湾人青年との交流会がありました。彼らはみな日本語を流暢に話し、私たちが普段使っている言葉とは比べものにならないほど綺麗で美しい、本来の日本語を話していたように思います。

私はこれまで台湾人の青年と関わったことがなく、何をどのように話したらよいのかまったく分かりませんでした。彼らの方から話題を振ってくれたり、私が伝えたいことを必死に理解しようとしてくれたりと、とても社交的で明るい方ばかりでした。

文化・食事・交通・言語・恋愛などさまざまな話題について語り、意見交換をした後、昼食をともにして、彼らに台北市内を案内してもらいながら散策しました。

彼らと過ごした時間は短いものでしたが、私にとって非常に貴重な時間となりました。

私は台湾の大学に入ることを目標とし、高校一年生から中国語の勉強を始めました。しかし、私が話せる中国語は、彼らの話す日本語と比べてまだまだ十分と言えません。それでも伝えようとすれば、その気持ちに応えてくれること、間違いを恐れずに積極的に話すことの必要性を、彼らとの交流で学べたように思います。会話を通して積極的に関わろうとする姿勢が互いの距離を縮めてくれました。

これからも互いの思想や立場を幅広



台湾青年たちと交流した時間は短かったがいろいろな学ぶことの多い非常に貴重な時間となった（8月22日、台湾大学の近くの集思台大会議中心）

く理解し合える良き友人を多く持ちたいと思った出会いのひとつでした。

募金パーティーで蔡先生に

別れを惜しみながら青年たちと過ごした場所を後にし、李登輝基金会の募金パーティーに足を運ぶため、一旦ホテルに戻り、正装に着替えました。それから、台北市内にある李登輝基金会主催のパーティー会場へ。

パーティー会場にはすでに多くの人が集まり、賑わいを見せていました。李登輝元総統の祝辞が述べられた後には食べきれないほどの料理が次々とテーブルに運ばれ、私たちは台湾の贅沢な料理に舌鼓を打ったのです。

台湾の総統選挙を間近に控えていることもあり、会場には民主進歩党の蔡英文主席をはじめとする、たくさんの方々の著名な方々も出席していました。

そんな中、出席されていた蔡焜燦先生が私たちのテーブルにわざわざ足を運んでくださいました。日本の古き良

き時代をよく知っておられる聡明で博学なお姿を、短い会話の中に感じ取ることができました。そして、そのお心遣いに深く感動し、身の引き締まる思いでした。このようにして充実した時間を過ごしていると、あつという間に閉会の時を迎え、私たちは会場を後にしたのでした。

最終日の二十三日は、有名な占い横丁や、李登輝基金会のパーティーで同席した方に教えてもらったお薦めのパインアップルケーキを買い求めに市内をあちこち回りました。その後に今回の参加者の方々と昼食をとり解散というスケジュールでした。当初は長く感じた四日間でしたが、時が経つのは思っていた以上に早く、夢のような充実した時間を過ごすことができました。

最後に、今回の研修ツアー団長を務められた杉本青年部長をはじめ、研修ツアーに携わっていただいた多くの方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。